

みくに保育園自己評価

令和2年度

保育所保育指針において、保育士及び保育所の自己評価並びにその公表が努力義務とされています。これに基づき、みくに保育園の保育の質の向上を図る為に自己評価を実施いたしました。保育園としての自己評価について、評価の項目、視点、方法および評価結果を下記の通り公表し、評価の結果を踏まえ今後もより良い保育を提供できるよう努力していきます。

『評価について』

A:よくできている B:わりとできている C:一部改善が必要 D:改善しなければならない

保育所の基本原則

- ・みくに保育園の保育理念、保育目標、保育指針を理解している

A	19	B	9	C	0	D	0
---	----	---	---	---	---	---	---

- ・保育指針に書かれている保育所の役割、保育の目標、方法、環境を理解している

A	11	B	17	C	0	D	0
---	----	---	----	---	---	---	---

- ・保育指針に書かれている保育所の社会的責任について理解している

A	10	B	17	C	1	D	0
---	----	---	----	---	---	---	---

養護に関する基本的事項

- ・保育における養護とは、子どもの生命の保持及び情緒の安定を図るために保育士等が行う援助や関わりであり、保育所における保育は、養護及び教育を一体的に行うことがその特性であることを知っている

A	16	B	8	C	0	D	0
---	----	---	---	---	---	---	---

- ・生命保持のねらい内容について知っている

A	8	B	15	C	1	D	0
---	---	---	----	---	---	---	---

- ・情緒の安定のねらい内容について知っている

A	7	B	16	C	1	D	0
---	---	---	----	---	---	---	---

保育の計画及び評価

- ・保育目標を達成するために、自園の保育方針や目標に基づき、子どもの発達過程をふまえて、全体的な計画を作成することを知っている。

A	15	B	7	C	1	D	0
---	----	---	---	---	---	---	---

- ・全体的な計画に基づき、具体的な保育が適切に展開されるよう、子どもの生活や発達を見通した長期的な指導計画と、それに関連しながら、より具体的な子どもの日々の生活に即した短期的な指導計画を作成している。

A	6	B	13	C	1	D	0
---	---	---	----	---	---	---	---

- ・3歳未満児は、一人ひとりの子どもの生育歴、心身の発達、活動の実態等に即して、個別的な計画を作成し、3歳以上児は、個の成長と、子ども相互の関係や共同的な活動が促されるように配慮し、適切な援助や環境構成ができるよう配慮している。

A	13	B	6	C	2	D	0
---	----	---	---	---	---	---	---

- ・障害のある子どもの保育については、一人一人の子どもの発達過程や障害の状態を把握し、適切な環境の下で、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう、指導計画の中に位置付けている。

A	9	B	11	C	1	D	0
---	---	---	----	---	---	---	---

・子どもの主体的な活動を促すためには、保育士等が多様な関わりをもつことが重要であることを踏まえ、子どもの情緒の安定や発達に必要な豊かな体験が得られるよう援助している。

A	9	B	12	C	2	D	0
---	---	---	----	---	---	---	---

・保育士等は、保育の計画や保育の記録を通して、自らの保育実践を振り返り、自己評価することを通して、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。

A	6	B	14	C	3	D	0
---	---	---	----	---	---	---	---

幼児教育を行う施設として共有すべき事項

・幼児教育を行う施設として共有すべき事項及び生涯にわたる生きる力の基礎を培うための示された保育の目標を踏まえ、保育所として一体的に育むよう努める「資質・能力」の3本の柱の内容を知っている。

A	10	B	8	C	6	D	0
---	----	---	---	---	---	---	---

・幼児教育を行う施設として共有すべき事項として「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」10項目をしっている。

A	10	B	9	C	5	D	0
---	----	---	---	---	---	---	---

保育の内容

・保育における「養護」とは、子どもの生命の保持及び情緒の安定を図るために保育士等が行う援助や関わりであることを理解している。

A	15	B	9	C	0	D	0
---	----	---	---	---	---	---	---

・「教育」とは、子どもが健やかに成長し、その活動がより豊かに展開されるための発達の援助であることを理解している。

A	17	B	7	C	0	D	0
---	----	---	---	---	---	---	---

・乳児期の領域「3つの視点」について知っている。

A	6	B	14	C	4	D	0
---	---	---	----	---	---	---	---

・乳児は疾病への抵抗力が弱く、心身の機能の未熟さに伴う疾病の発生が多いことから、一人一人の発達及び発達状態や健康状態についての適切な判断に基づく保健的な対応を行っている。

A	10	B	10	C	3	D	1
---	----	---	----	---	---	---	---

・1歳以上3歳未満児の「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の意味、「ねらい」「内容」「内容の取扱い」について知っている。

A	7	B	14	C	3	D	0
---	---	---	----	---	---	---	---

・3歳以上児の発達の内容と「5領域」について知っている。

A	9	B	10	C	4	D	0
---	---	---	----	---	---	---	---

保育の実施に関して留意すべき事項

・子どもの心身の発達及び活動の実態などの個人差を踏まえるとともに、一人一人の子どもの気持ちを受け止め、援助している。

A	12	B	10	C	2	D	0
---	----	---	----	---	---	---	---

・子どもの国籍や文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てるようにし、また、子どもの性差や個人差にも留意しつつ、差別などによる固定的な意識を植え付ける事がないようにしている。

A	15	B	7	C	2	D	0
---	----	---	---	---	---	---	---

・保育所保育が小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることに配慮し、幼児期にふさわしい生活を通じて、創造的な思考や主体的な生活態度などの基盤を培うようにしている。

A	10	B	11	C	3	D	0
---	----	---	----	---	---	---	---

健康及び安全

・子どもの心身の状態に応じて保育するために、子どもの健康状態並びに発達及び発達状態について定期的・継続的に、また、必要に応じて随時、把握している。

A	14	B	8	C	2	D	0
---	----	---	---	---	---	---	---

・子どもの心身の状態等を観察し、不適切な養育の兆候が見られる場合には、市町村や関係機関と連携し、適切な対応を図っている。虐待が疑われる場合には、速やかに市町村又は児童相談所に通告し、適切な対応を図っている。

A	13	B	8	C	2	D	0
---	----	---	---	---	---	---	---

・感染症やその他の疾病の発生の予防に努め、その発生が疑いある場合には、必要に応じて嘱託医市町村、保健所等に連絡し、その指示に従うとともに、保護者や全職員に連絡し、予防等について協力を求めている。

A	11	B	11	C	1	D	0
---	----	---	----	---	---	---	---

・アレルギー疾患を有する子どもの保育については、保護者と連携し、医師の診断及び指示に基づき適切な対応を行うとともに、食物アレルギーに関して、関係機関と連携して、自園の体制構築など、安全な環境の整備を行っている。

A	17	B	7	C	1	D	0
---	----	---	---	---	---	---	---

・保育所における食育は、健康な生活の基本としての「食を営む力」の育成に向け、その基礎を培う事を目標とし、子どもが生活と遊びの中で、意欲をもって食に関わる体験を積み重ね、食べることを楽しみ、食事を楽しみ合う子どもに成長していくことを期待するものであることを知っている。

A	16	B	9	C	0	D	0
---	----	---	---	---	---	---	---

・子どもが自らの感覚や体験を通して、自然の恵みとしての食材や食の循環・環境への意識、調理する人への感謝の気持ちが育つように、子どもと調理員等との関わりや、調理室など食に関わる保育環境に配慮している。

A	9	B	10	C	7	D	0
---	---	---	----	---	---	---	---

・保育中の事故防止のために、子どもの心身の状態等を踏まえつつ、施設内外の安全点検に努め、安全対策のために全職員共通理解や体制づくりを図るとともに、家庭や地域の関係機関の協力の下に安全指導を行っている。

A	7	B	12	C	5	D	0
---	---	---	----	---	---	---	---

・事故防止の取り組みを行う際には、特に、睡眠中、プール活動・水遊び中、食事中等の場面では重大事故が発生しやすいことを踏まえ、子どもの主体的な活動を大切にしつつ、施設内外の環境の配慮や指導の工夫など必要な対策を講じている。

A	15	B	7	C	2	D	0
---	----	---	---	---	---	---	---

・防火設備、避難経路等の安全性が確保されるよう、定期的にこれらの安全点検を行う、備品、遊具等の配置、保管を適切に行うなど日頃から、安全環境の整備に努めている。

A	6	B	11	C	7	D	0
---	---	---	----	---	---	---	---

・火災や地震などの災害の発生に備え、緊急時の対応の具体的内容及び手順、職員の役割分担、避難訓練計画等に関するマニュアルを作成し、定期的に避難訓練を実施するなど、必要な対応を図っている。

A	10	B	8	C	7	D	0
---	----	---	---	---	---	---	---

子育て支援

・保育及び子育てに関する知識や技術など、保育士等の専門性や、子どもが常に存在する環境など、保育所の特性を生かし、保護者が子供の成長に気付き子育ての喜びを感じられるように努めている。

A	10	B	9	C	4	D	0
---	----	---	---	---	---	---	---

・保護者の状況に配慮した個別の支援がとられている。

A	11	B	11	C	1	D	0
---	----	---	----	---	---	---	---

・不適切な養育等が疑われる家庭への支援が確立されている。

A	5	B	13	C	5	D	0
---	---	---	----	---	---	---	---

職員の資質の向上

・自己評価に基づく課題を把握し、保育所内外の研修を通じて、自身の職務内容に応じた専門性を高めるため、必要な知識及び技術の修得、維持及び向上に努めている。

A	8	B	13	C	6	D	0
---	---	---	----	---	---	---	---

・職員が日々の保育実践を通じて、必要な知識及び技術の修得、維持及び向上を図るとともに、保育の課題等への共通理解や協働性を高め、保育所全体として保育の質の向上を図っていくために、職場内での研修の充実が図られている。

A	7	B	9	C	10	D	1
---	---	---	---	---	----	---	---

「個人評価」

*今年度の評価・課題

- ・0才児ではありますが、子ども一人一人の性格を見極め接したことにより、それぞれが自分を発揮し大きなケガもなく健康に過ごすことができた。
- ・初めての0才児ということで、戸惑いもあったが、子ども一人ひとりの性格や発達に応じ保育ができた。
- ・クラスのチームワークはうまく取れ、コミュニケーションも多く互いに気遣いながら仕事ができた。
- ・保育理念に沿って担任同志が同じ方向を向き、子ども達にあたかな愛情を注いで、成長を見られたことはうれしく思う。
- ・日々気をゆるせることなく、全体と個人を見、穏やかに温かい対応を心掛けた。
- ・初めての未満児で保育の難しさをととても感じた。排泄の仕方生活の手順など学ぶ事の多い年となった反面失敗もあった。
- ・子ども一人ひとりとの関わりを多く持ち、関係性を深めていくことができた。
- ・クラスの中でも個別対応の必要な子どもが多く、それぞれの生育歴や家庭環境・保護者支援子どもへのかかわり方等を踏まえたうえで、保育に当たることが出来た。
- ・子ども一人ひとりの発達性格を見極め、それぞれに合った援助を行う、特に支援が必要な子どもに対しては、援助を工夫する。
- ・園全体としての自分の役割については、ミドルリーダーとして具体的に何をしたら園の為職員の為に役に立てるのかまだはっきり見いだせずにあります。
- ・子ども一人ひとりに関わりそれぞれの個性に気づき尊重しながら、子どもが出来ることを少しでも多く増やしていきたい。
- ・一人ずつ丁寧な声掛けや視覚からの情報で分かりやすいように、絵カード・タイムタイマー等工夫しながら取り入れていく事が出来た。
- ・スモールステップを目指し、一つ一つ出来ることを増やせるよう、ゆっくりと見守りながら

支援することを心掛けた。

・子どもも十人十色、それぞれの速さでの成長がある事を感じとても勉強になった。また、担当児の大きな成長、その周りのクラスの子も達の優しさの育ちを感じることが出来た一年でした。

・アレルギー等の除去作業にミスが無いよう確認し合うよう努力しました。

・献立作成をソフトを使い自園独自の献立をはじめたが、難しさを感じた。また、年長児のリクエストメニューを取り入れるなど新しい取り組みが出来た。

* 次年度の改善点

・保育者間で意見を言いながら、気持ちに余裕をもって保育を進めていけるよう努めていく。

・どの学年でも言える事だが、言葉遣いには気を付けていきたい。

・子ども達のそれぞれの個性に対し、どのようにしたらよい方向に進むのか模索している

・一人一人の気持ちに寄り添い、丁寧に関わり保育の充実を考えていく。

・子ども達だけでなく保護者の気持ちを受け止め、より一層の信頼関係が保てるようにする。

・一人ひとりの思いを汲み取り安心して伸び伸びと過ごせるよう見守って行きたい。

・もっと子どもに合わせて無理なく生活できるようにしていきたい。子どもに寄り添い言葉かけを大切にしていきたい。

・常に子ども個人個人の目標をもって保育する。

・忙しい時でも慌ただしい時でも焦らず一人ひとりを受け止めて行けるようにしたい。

・体験や経験をテーマにしてきたが、子ども達の精神面の成長を具体的に目標を立て一年を通して見守って行きながら保育をしたい。

・自分が子ども達や保護者に対して、何ができ何をすべきかを考えながら保育に当たりたい。

・子どもへの援助には、日々反省したり悩む事も多かったのですが、自分の保育や援助に自身を持つことが重要だと気が付きました。

・自分を律し役割を明確にしたうえで行動する。

・個人差をもっと理解し、その子の苦手な部分をもっと知り、苦手から得意に変化できるようにその都度その時に合った保育を勉強していく。

・当該年齢という基本の成長過程ばかり見ずにそれぞれの成長発達段階を把握しながら小さな成長も共感し保育することが出来たらと思う。

・栄養のバランスだけでなく子ども達が美味しく楽しく食べることが出来る献立の作成が必要である。特に塩分や脂質に注意して献立作成に努めたい。

「クラス運営評価」

* 今年度の評価・課題

・戸外で過ごす時間を多くとり、体力向上を図ったり手洗い消毒を心がけたことで、コロナ禍の中、感染症が流行する時期であるが元気で登園できた。

・クラスで、ゆっくりした保育の中で子ども達と過ごせたと思う。子ども達のやりたい気持ちを大切にし、経験をさせてあげることにつながった。

・複数担任なので保育観をできるだけ同じにするよう日々の保育の中で話し合いができた。

・一人ひとりの成長や変化についても語り合い、子ども達と共に笑顔で仕事が出来た。

- ・ケガの無いように常に気を配り子ども達を見守ってきた。
- ・隣のクラスとトイレや製作の時間をずらす等工夫して保育することを模索した。
- ・情報を話し合い共有することにより、保育士間でその日に有ったことや、自分たちなりの考えを意見交換してきた、一人ひとりの対応を共有し、一貫性のある保育ができたと思う。
- ・それぞれが自分との違いや保育観を見つめお互いが勉強になったと思うところがあった。子ども達にも少なからず楽しい雰囲気の中で保育が出来たと思う
- ・支援を必要とする子が多く、活動の流れを考えたり、援助の方法を模索しながら保育をしていった。行動のメリハリや落ち着きに関して課題が残った。
- ・年少クラスということで、精神面の安定を図りながら、生活の中で必要なことを丁寧に伝えていくようにしました。
- ・子どもの感じ方考え思いに気づき寄り添う保育をすることが課題だったが、場面や子どもそれぞれが違うので寄り添うことが難しかった。
- ・一年間クラス目標として「人の話をきちんと聞けるようにする」事とし、担任同士同じ方向性で進めていく事が出来た。
- ・クラスの中では、担任がその場にいることで安心して過ごせている様子が分かり、信頼してくれていることをうれしく思う。
- ・全体のまとまりも大切だが、担任するクラス一人ひとり短い時間でも個々との関りの時間を作っていきたい。そこから信頼関係を気づき、全体へ繋げていけたらと思う。

* 次年度の改善点

- ・次年度は意見を述べつつ、主の先生を中心に更により良い保育ができるよう、向上心をもって保育をしていきたい。
- ・子どもの発達を把握し、発達に合った保育に努めていく。
- ・保育者同士の保育の仕方に少しずれを感じる事があったので、もっとコミュニケーションをとればよかったなと感じます。
- ・1才児は想像以上に出来る事が増え伸びる力を感じたが、一人ひとりに寄り添いながら育ちに合わせた保育をするよう心掛ける。
- ・無理のないその子に合った保育をし、たくさんの穏やかな笑顔が見られるようにしていく。
- ・自分が主の保育士となりクラスの保育を進めるとき、自分の事しか考えられず、周りを見ていないことが何度かあった。余裕を持ち周りを見ながら行動できるようにしたい。
- ・クラス担任同士の共通理解が今後も必要と考える。人間性や保育観なども認めながらクラス運営に当たりたい。
- ・子どもの主体性を意識した保育と保護者との積極的なコミュニケーション
- ・子どもの表情や場面からどんな気持ちで何を想っているのか気づいていけるよう日々関わり方を工夫していきたい。
- ・個別対応児の引継ぎをしっかりと行う。職員同士思いやりを持ち仕事に取り組む
- ・非認知能力を引き上げるというイメージよりも自然と伸びるようなアシストをするイメージで保育する。

「園全体評価」

* 今年度の評価・課題

- ・ 2階の部屋からの移動時に、他の職員と連携をとり安全に移動することができた。
 - ・ 今年度は、先生方からアンケートをとり先生方の思いや考えを知ることができた。
- 正直、自分勝手だと感じた意見もあり改めて園全体がまとまることの大変さを痛感した。
- ・ 毎週の会議のほかに、専門職の研修を受けた職員との話し合いが持て、給食会議も実施されたことは良かった。
 - ・ 常に会話が出来ている、クラスでは有難い人間関係だった。
 - ・ 学年の主の先生が集まり、園を良くしていこうと試行錯誤を重ね園の事を見つめ直してくれたことはとても良いことだと思う。
 - ・ コロナ禍での行事の変更が多々あり、保護者には多くの理解とご協力を頂くことになった
 - ・ 職員のそれぞれの思いや課題に対し、これまでの概念を一度捨てることも必要だと思いました。また、園に対する要望だけでなく、自分自身の気づきにもなりました。
 - ・ 月案 週案の目標に対して保育を見直すことで、主体性を意識し、次の保育につなげようと努力出来た。
 - ・ 人間関係で悩む事が多かった、保育は楽しい子ども達と接している間は大丈夫だが保育士同士の愚痴が多く、聞いているのが辛くなることも有った。
 - ・ 子どもに注目し、どう関わっていくのかという点についてもう少し全体での共通理解を見出せたらとおもう。
 - ・ 職員のアンケート結果等を聞き、園を良くしていきたい思いから、いろいろな意見を知る中で改めて職員間の共有や信頼感を持って保育することの大切さを感じた。
 - ・ 子ども優先という考え方は、職員にも保護者にも通じなくなっている。

* 次年度の改善点

- ・ 避難訓練は行っているが、火災・地震が起きた場合は、実際にはどうしたら安全に子どもの命を守れるか改めて考えて行動したい。
- ・ アンケートを基に改善すべきところは改善し、園の方針などについては変えてはいけないと思う。
- ・ 時代の流れと共に人間同士の付き合いが希薄になっている事は仕方のないことだが職員は人として思いやる気持ちと感謝を忘れず同じ方向を向いて連携を密にし、より良い保育園をめざしていくよう心掛ける。
- ・ 食育として給食はおいしく頂いているが、手作りおやつも少し増やしてもらえると良い。
- ・ 保育理念 保育指針 保育目標 を全体で確認し理解を深めて保育の中で実施していく
- ・ 一人ひとりに合わせた保育、楽しく食事ができる環境、明るく伸び伸びと生活できる環境
- ・ 今後も話し合っ、無理なく楽しんで過ごせる事を考えていきたい。
- ・ 身近な環境に興味や好奇心を持ち、感じたことや考えたことの楽しさを保育者や友達と共有する。
- ・ 防犯や災害等への心構えや準備はとても大切であると改めて感じた、出来る限りの事を

想定し訓練していくことは大切かと思う。

- ・働きやすい環境づくり、職員の意識の向上、少人数での意見交換を積極的に実施する。
- ・ねらいに応じて子どもが主体的に選択できる活動遊びの内容の充実
- ・保育者の手助けが必要なところとそうでない所を見分け、子ども自身を大切にしっかりと伸ばしていけるよう関わっていきたい。
- ・自分からポジティブ発言を増やし明るく楽しい雰囲気づくりを心掛けた。
- ・職員間の今後の関係向上と共に本園の他園にない良さ、アピールできる所を全体で確認していけると良いと思う。
- ・園内研修の充実
- ・防災備蓄の食品（無洗米等）の必要性をもう一度見直す。